
令和7年度予算編成について

昨日、「令和7年度予算編成方針」を各部局長に通知し、新年度当初予算編成作業を本格的に開始した。

1 予算編成の基本的な考え方

- 本市が長期的なビジョンとして掲げている「持続可能な未来都市 高岡」の実現に向け、これまで、市民の皆様とともに「挑戦」を広げ、加速させてきた。市民の様々な挑戦から生まれたヒト・モノ・コトの「循環」は、その歯車が噛み合いはじめたことで、より大きな環となりつつある。活力ある地域社会、そして活力ある地域経済の創出のためには、循環を持続し、市民が心を合わせ挑戦し続けることが重要であり、令和7年度は引き続き様々な「循環」を創出するとともに、高岡が抱える社会課題等の解決を目指し、市民の皆様とともに取組み、未来に向けて高岡を前へ進めていく。
- 令和6年能登半島地震によって、住家や公共インフラをはじめ、従来の日常生活の“当たり前”を支えてきた土台が揺るがされた。今、私たちは市民の皆様と共に一歩踏み出し、単に元の“当たり前”を取り戻すのではなく、未来に必要とされる新たな“当たり前”を「つくり」、「まもり」、「かえていく」ことが重要である。市民の皆様の理解と協力を得ながら、一日も早い復旧・復興を推し進めるとともに、インフラの強靱化、地域の防災力の強化など「強い高岡」の構築を目指し、取組みを進める。
- 少子高齢化の時代においても、まちの未来を担い、地域の宝であるこどもをまんなかに位置付ける「こどもまんなか社会」の実現に向け、今年度「高岡市こども計画（仮称）」を策定中である。（計画期間：R7.4～R12.3）こどもを生み育てやすい環境を整えることは未来への重要な投資であり、こどもがふるさと高岡に愛着を持ち、自分の未来に夢や希望を持って成長できる社会の実現に向けて、こども施策を更に推進していく。
- 2050年のカーボンニュートラル達成を目指し、市民・事業者・行政が協働して、脱炭素社会への取り組みを進めていく。脱炭素先行地域として、持続可能な社会や経済の循環を加速させるため、まちなかでの脱炭素化事業や企業とともに資源リサイクル等の関連産業の推進事業に取組み、カーボンニュートラルによる「地域も暮らしも豊かになる社会」の構築を推進する。
- これらを推進するには、震災からの復旧・復興を進めながらも、将来にわたって健全な財政運営を持続するとともに、課題を先送りすることなく、「今を生きる自分達から始める」という意識と、市民とともに心をあわせて助け合う精神のもと、20年、30年先の未来を見据え、決意と覚悟をもって勇往邁進していく。

2 令和7年度予算編成のポイント

令和6年1月1日に発生した地震の影響が市内各地に残るなか、物価高騰をはじめとする社会情勢の変容による経費の増加など、本市を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。

さらに、人口減少の現状を鑑みれば、今後の自主財源が現在の水準から大幅に増加することは見込めず、非常に厳しい財政運営が続くことが見込まれる。

しかしながら、このような状況下にあっても、復旧・復興を最優先とし、「強い高岡」の実現と未来を見据え「高岡を前へ進める」ことを両立し、『持続可能な未来都市 高岡』に向け、さらに加速化する予算を編成する。

これまで市民とともに広げ、加速させてきた「挑戦」から生まれた、ヒト・モノ・コトの「循環」の歯車が噛み合いはじめてきている。これからはこの循環を強く後押しし、大きな環として繋ぎ、市民の心を一つにし、未来に向けて勇往邁進していくことが必要である。

また、次の世代にしっかりとしたバトンを渡すため、未来においても市民の挑戦が可能となるように公債費負担の軽減や事務事業の見直しなど、不断の行財政改革の取り組みを継続するとともに、事業の費用対効果を高められるよう徹底的に知恵を絞り、新たな財源の確保を図るなど、あらゆる手段を講じていく。

(1) 「持続可能な財政運営」を意識した予算編成の実施

貴重な限りある財源をより有効に活用するため、あらゆる事業に対し、各部局において主体的に事業の意義や目的、効果を点検し、時代に適応した事業へ転換を図るなど、事業の選択と集中、効果の拡大・促進に取り組むこと。また、全ての職員が市民目線で創意工夫し、徹底的に無駄を省くことを意識して新年度予算編成に臨むこと。

(2) 予算要求特別枠の設定

① 「強い高岡構築枠」(「復旧・復興推進枠」)

一日も早い復旧・復興を推し進め、「強い高岡」の実現に向けた取り組みについて、提案を募る。

② 「高岡を前へ進める事業枠」

「持続可能な未来都市 高岡」の実現に向けた『挑戦』を更に加速させ、様々な『循環』を創出する等、未来に向けて『勇進』する事業の提案を募る。

なお、②については「事業目標や終期の明確化」、「事業改善・見直しによる効果」が見込まれることを前提とすること。

＜特別枠の要求にあたり重点的な検討を求める視点及び手法＞

●視点	
・市民の安全・安心確保に向けた地域の強さやまちの復興につながる取り組み	
・高岡ならではのこどもをまんやかに据えた全方位型の取り組み	
・カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み	
・市役所が「市民の役に立つ所」となるための「どこでも市役所」の充実等、デジタル技術による市民サービスの向上	など
●手法	
・費用対効果の高い事業への選択と集中	
・デジタル技術の活用による事業手法の転換	
・新たな歳入の確保	など

〔参考：予算編成日程〕

10月3日(木)	予算編成方針記者発表
11月上旬	予算要求書の提出
1月中旬～1月下旬	市長査定
2月中旬	予算(案)の発表